



畜産研通信

平成26年度第1号

【養豚・養鶏研究部】—種豚情報—

養豚・養鶏研究部では、今年度もデュロック種（アイリスナガラ、ポーノブラウン）と大ヨークシャー種の種豚および人工授精用精液を販売いたします。貴管内養豚農家の経営効率化に当研究所の種豚を積極的に活用してください。

＜平成26年度の種畜一例＞

「アイリスナガラ」

個体番号	生年月日	現場直接検定成績		
		1日増体量 (g/日)	背脂肪厚 (cm)	ロース芯面積 (cm ²)
ナガラD 987 4 4602	H25.1.17	1,002.8	1.8	40.7
ナガラD 830 6 5203	H25.2.25	995.1	1.8	41.6
ナガラD 1105 3 7403	H25.6.14	1,039.0	1.8	40.1

「ポーノブラウン」

個体番号	生年月日	検定成績		
		1日増体量 (g/日)	背脂肪厚 (cm)	ロース芯面積 (cm ²)
ポーノブラウン 1023 3 6506	H25.4.11	962.1	1.8	38.8
ポーノブラウン 1117 3 8604	H25.7.25	937.0	1.7	42.5

- ※ 現場直接検定：体重 30～70kg まで前期飼料(CP15.5%, TDN77%以上)、70～105kg まで繁殖豚用飼料(15%, TDN74%以上)を給与。105kg 時に、体長 1/2 部位でロース芯面積、背脂肪厚を測定。
- ※ 種畜検査基準：1日平均増体量 1000g/日以上（3点）、背脂肪厚 1.7cm 以下（2点）、ロース芯面積 41 cm² 以上（1点）。合計 3 点以上で体型基準を満たすものを特級と認定。
- ※ 平成26年度の販売価格 人工授精用精液 1,130 円
種雄豚 63,000 円、種雌豚 54,000 円
- ※ 上記以外にも種雄豚を飼育しております。お好みのタイプ等ございましたらお問い合わせください！！
人工授精用精液および種豚の注文等のお問い合わせは、畜産研究所養豚・養鶏研究部まで。

【養豚・養鶏研究部 関試験地】一卵用奥美濃古地鶏の譲渡と飼育管理研修会を実施一

養豚・養鶏研究部関試験地では6月25日に卵用奥美濃古地鶏の飼育管理研修会および県内各地の16戸の養鶏農家に430羽の中びな（ワクチン接種済み）の譲渡を行いました。

卵用奥美濃古地鶏は、雄系に天然記念物の岐阜地鶏、雌系には産卵性に優れるロードアイランドレッドを用いています。育種改良については、岐阜地鶏の維持とロードアイランドレッドの性能向上により、卵の生産性や品質を高めることを目指してきました。平成3年の発表後から、譲渡希望に合わせて県内農家へひなを供給してきました。通常の市販有色卵に比べ、小振りな割に卵黄の大きさが変わらないため、卵黄卵重比が高くコクのある味わいと、さらに褐色卵とピンク卵の中間の淡い色合いの卵殻色が特徴です。卵黄の比率が高い分、卵白が少なく、卵かけごはんにちょうどよく、濃厚な味となっています。成分分析の結果からも、市販有色鶏に比べ、蛋白質や灰分が高く、うま味物質と言われるグルタミン酸が多く、



そのような特徴を生かした差別化商品として利用されています。また、岐阜地鶏という小柄で羽装の美しい鶏の血を色濃く受け継ぐため、自家用の庭先養鶏としても好評です。



【酪農研究部】一学校教育と試験研究を結ぶ家畜審査競技会一

酪農研究部（恵那市山岡町）において7月9日に岐阜県学校農業クラブ連盟主催による第65回家畜審査競技（乳牛の部）岐阜県大会が開催されました。県下4農業高校のクラブ代表16人が搾乳牛と育成牛の体型審査を競いました。農業高校の中でも乳牛を飼育しているのは1校しかなく、酪農研究部が場所と乳牛を提供し、ホルスタイン審査員の資格を持った研究員が公正な立場で審査を支援し、農業教育に協力しました。

競技会の主役は選手の皆さんでしたが、開会式や競技の運営に当たった当番校の生徒にとっても、学校とは違った環境の中で伝統ある行事を体験する機会でした。閉会式直後、次期当番校からは来年度の開催も是非とも酪農研究部にお願いしたいと大きな期待が寄せられました。

酪農に興味を持った生徒が代表選手になり真剣な眼差しで競技に挑んでいました。興味が夢に代わり、その夢が膨らみ就農に結びつくことを願っています。



【飛驒牛研究部】－基幹種雄牛の更新について－

飛驒牛研究部では昨年度末から今年度にかけて、関係者各位のご協力により4頭の現場後代検定を終了することができました。いずれも良好な成績により、基幹種雄牛に繰り入れられることが決定しましたので紹介します。

それぞれの種雄牛の特徴を踏まえ、有効に人工授精用精液を御利用いただきますようお願いいたします。

「永光清」(白清85の3－光平福－糸福－安福)

産子の特徴は、ロースおよび腿の肉質に加え、バラ厚も優れております。体型的には肩付きや体上線が良好ですが、やや小格なため体積のある母体に交配されることが望まれます。



「花清勝」(白清85の3－北国7の8－紋次郎－賢晴)

現在活躍中の「花清国」とは異父兄弟です。脂肪交雑は県有種雄牛の中で育種価トップであることに加え、肉色やサシの形状も良好であります。本牛は第11回全国和牛能力共進会肥育区(第7区および9区)の種雄牛にも選ばれています。

「花安鶴」(第1花国－平茂勝－安福－糸北鶴)

飛驒牛の肉質を損なうことなく、体積が期待でき、雌を残していくための種雄牛として、青森県の種雄牛「第1花国」を利用して種雄牛造成を行ってきた1頭目です。枝肉重量の育種価は県有種雄牛中トップであり、脂肪交雑も良好です。産子は発育良好であり、娘牛は母体として活躍することが期待されます。



「立花国」(第1花国－平茂勝－安福－茂富士)

「花安鶴」と同様の目的で造成されました。産子は枝肉重量および脂肪交雑共に良好で、特に腿の脂肪交雑に優れています。「花安鶴」同様、娘牛が母体として活躍することが期待されます。

畜産研究所ホームページ <http://www.livestock.rd.pref.gifu.lg.jp>

- 飛驒牛研究部 506-0101 高山市清見町牧ヶ洞 4393-1
Tel 0577-68-2226 Fax 0577-68-2227 Email boxbeef@livestock.rd.pref.gifu.jp
- 酪農研究部 509-7601 恵那市山岡町久保原
Tel 0573-56-2769 Fax 0573-56-2974 Email boxdairy@livestock.rd.pref.gifu.jp
- 養豚・養鶏研究部 505-0037 美濃加茂市前平町 3-8
Tel 0574-25-2185 Fax 0574-28-4132 Email boxswine@livestock.rd.pref.gifu.jp
- 養鶏・養鶏研究部 501-3924 関市迫間 2672-1
Tel 0575-22-3165 Fax 0575-22-3164 Email boxpoultry@livestock.rd.pref.gifu.jp